

東北復興日記



149

震災以降、心痛むさまさまな情報を断片的に耳にしてはいたものの、直接何かにかかわるまでには至らずに、ほそぼそと寄付を続けていました。自分が何ができるだろうと自問する日々を重ねて一年が過ぎたころにJKSKの「結結プロジェクト」に出会い、第四回車座交流会より参加させていただくこととなり



JKSK会員 東桂さん



参加型の交流 今後

ました。

南三陸町&大崎市、気仙

沼、南相馬、広野町と、宮城

・福島各地で開かれた車座

に参加し、地元の方々やプロ

ジェクトに参加しているの方々

と交流しました。将来的な視

点での問題解決と、今現在を

どうしのぐかという時間勝負

の問題解決とを同時に抱えて

いる状況から、時間の経過と

ともに状況が変化しているこ

とを感じたのが広野町での第

八回車座(先月十、十一日)

写真Ⅱでした。同町に帰還

された町民は五割弱の二千五

百人ほど。約三千人の作業員

の方が新たに居住されている

状況です。

いわき市の仮設住宅から広

野町に建てた家に移られた方

のお宅にホームステイさせて

いただきました。家から高校

に通う娘さんや、パークゴル

フに夢中というおばあちゃん

との会話も、東京の私の日常

となら変わりなく、事前に

いただいた漠然とした被災地の

暮らしのイメージからは遠い

ものでした。繰り返される時

間により、その生活は日常に

なり、痛みを受けとめながら

も時間は流れていることを実

感しました。それでもお別れ

の際に「また来てほしい」と

いわれた言葉が染みみました。

結結プロジェクトの取り組

みの中でも「つぼとんとんセ

ラビー」や「福島オーガニッ

クコットンプロジェクト」

は、けん引する方々の粘り強

い取り組みにより、参加型の

交流を継続し、自立する力を

蓄えていっているように思

ます。これらのプロジェクト

が深まりを見せてきているこ

とから、「継続した交流」が

今後も引き続きキーワードで

あると感じました。

これからもつながりを大事

に、かわりを持ち続けたい

と思っています。

この連載は、東京のN

PO法人JKSKと、被

災地の女性たちが協力し

て復興に取り組む「結結

プロジェクト」の協力を

得て、掲載しています。